

慶応二年六月九日より慶応二年六月十二日まで

P8310599 right

九日 申 晴雲

長蔵来り大竹（敬）紹介頼聞る、朝第九時、河内守殿邸にて仏ミニストル外四人（カシヨン、グレイ、フリー、セフリヤン）御逢

有之、和泉守殿、縫<sup>□</sup>殿、出雲殿御列席右へ出席、第二時退出、須崎（常） 暑見舞として小品持参の旨、保三同行来り、但一昨七日駒込へ移居せし趣

十日 酉 晴

太郎稽古序を以、戸祭伊藤へ暑見舞（霜糖二斤入老折づつ）遣す、須崎快方よりそら豆一器贈り来る

訪暑の意なるべし、広沢（悦）暑見舞に来り小品持参、出 殿、此仏ミニストルへ引合橋本又七郎、屋敷上地の義甲州共々和泉守殿へ建言す、コンペニー取扱の義、御内命有之富沢叔母暑見舞に来り团扇、菓子など持参の旨、正覚稽古に来り見舞の意

P8310599left

児等へ小品贈りし旨、関本へ暑見舞品（霜糖三斤入）遣せし旨、接遇所より乗切使にて英ロコック書翰

相届く昼時杉田忠門方へ翻訳に遣せし処、同所建築建増等の義に付返翰也

十一日 戌 雨数過午下晴夕遠雷

松盛亭稽古に来り小品（二種の<sup>□</sup>し）持参、且ポンプ買入の紹介を頼し当人某面晤を乞に来りし由

なれども越国百姓、庄屋の趣故辞して不面、蒸菓子一折を贈らる、須崎へ婚賀として<sup>□</sup>う一臺？縁女へ海鳴（鳴海）紋り、<sup>□</sup>衣地を賀贈し且快翁正覚柳斎方三家へ訪暑品（霜糖二斤入一折づつ）を遣す

出

殿、詰番土浦候より土産茶少許贈らる、藤山へ暑見舞品（霜糖二斤入箱）遣わす旨、山本（長）

前同断来り

团扇五、油揚もの贈られし旨、沢（錦）心願品書付<sup>□</sup>帰り明日京地立番発足の由

十二日 亥 晴雲

（内は細字双行（二行に小さい文字で二行書き）などの場合です。

<sup>□</sup>印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、<sup>■</sup>は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。